

イントロダクション

「講義は実習や看護師国家試験の勉強に役立たない！」なんて思っていないですか？

確かに実習では情報収集や報告・記録に重点が置かれ、時間もとられがちです。

看護師国家試験では多くの科目について問題が出されるため、「これも分からない！覚えなきゃ！」の繰り返しになるのも仕方がない側面があります。

でも、ちょっと視点を変えてみてください。

実習の一日の流れをもとに、講義や看護師国家試験の勉強を見てみるとどうなりますか？

実習担当者さんに「根拠は？」と聞かれるところを、事前に講義復習をしておくならば答えに詰まるのが減るかもしれません。

看護実習で出会う技術の重要性が分かれば、看護師国家試験の必修問題として繰り返し出題される理由も納得できるはず。

しかも実習時の情報収集・報告、記録のポイントが分かって早く終わるようになります。

もちろん看護師国家試験勉強は「講義の復習かつ実習の復習」になりますから、どんどん頭に入ってくるようになりますよ。

いいことばかりですね。

そして看護は一人ではできません。多人数、多職種でチームを作って行うものです。

「どんなときに、どんな職種の人と協力しているのか」の一部も確認しましょう。

ここでは病院内でのチームメンバーとして、医師、(主に放射線)検査技師、薬剤師、作業療法士(OT)・理学療法士(PT)・言語療法士(ST)などについて紹介する予定です。

この本が講義と実習、看護師国家試験勉強をつなげるお手伝いとなりますように。

橋本さとみ